



事業名	重点目標	分野別の目標	5 積極的な身体活動と運動習慣の形成
さいたま市レクリエーション協会支援事業	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		6 睡眠と休養の確保、ストレスの解消
事業の目標	II 地域の環境や社会資源を活用した健康づくり		
さいたま市レクリエーション協会加盟団体の種目を紹介及び体験させることで、スポーツ・レクリエーションの楽しさを伝え、市民のスポーツ・レクリエーションへの取組や種目団体への加入を促すよう支援する。	区の健康づくりの目標		
	—		
事業の対象者	単年度事業・継続事業		
市民(幼児から高齢者まで)	継続事業		
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
さいたま市レクリエーション協会、さいたま市レクリエーション協会加盟団体(15団体)、NPO法人埼玉県レクリエーション協会、市内体育施設			
取組の内容			
(1)さいたま市レクリエーション協会によるレクリエーションフェスティバル(加盟団体の種目や団体等の紹介及び体験コーナーの設置)			
(2)レクリエーション協会加盟団体によるレクリエーションの普及事業			
<p><さいたま市レクリエーション協会加盟団体> 全15団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インディアカ協会 ・ソフトバレーボール連盟 ・家庭婦人バレーボール愛好会 ・サイクリング連盟 ・3B体操同好会 ・ターゲット・バードゴルフ協会 ・日本民踊連盟 ・レクリエーション指導者協議会 ・フォークダンス連絡協議会 ・グラウンド・ゴルフ協会 ・ミニテニス連盟 ・ビーチボール協会 ・社交ダンス連盟 ・ペタンク連盟 ・ディスコン協会 			
(3)広報誌及びレクリエーション協会加盟団体紹介リーフレットの作成(市内体育館等の公共施設へ配置)			
取組の成果			
市内公共施設へ広報物を配置したことにより、幅広い世代の方にスポーツ・レクリエーションを知っていただくことができた。また、誰でも参加可能なレクリエーションフェスティバルの開催により、今までスポーツ・レクリエーションが身近でなかった方々にも、実際にレクリエーションを体験していただくことができた。			
課題	今後の方向性		
種目団体数及び会員数の減少と、会員の高齢化。	誰でも参加可能なレクリエーションフェスティバルや普及事業の継続的な実施により、多くの方にスポーツ・レクリエーションが身近であると感じていただくことで、会員数の増加に努める。		

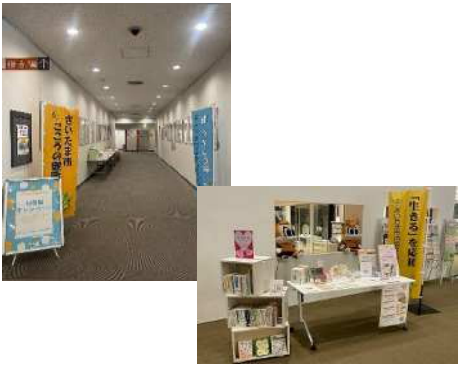
事業名	重点目標	分野別の目標	1 がんの予防と早期発見の推進
がん教育出前講座	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		
事業の目標			
若い世代ががんに対する正しい知識や検診の重要性を学ぶことで、がんに対する関心を高め、予防行動や将来のがん検診の受診を促す。			
	区の健康づくりの目標		
	—		
事業の対象者	単年度事業・継続事業		
市立各学校の児童・生徒、保護者、教員	継続事業		
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
自治医科大学附属さいたま医療センター、さいたま市民医療センター、埼玉メディカルセンター、さいたま市薬剤師会、Çava! ~さいたまBEC~			
取組の内容			
以下3校で「がんの仕組みや予防法」、「がん経験者の体験談」などについて講座を実施予定。			
①令和6年1月13日(土) 城南中学校 ※予定 参加者:全校生徒、教員、保護者 (220名) 講師:埼玉メディカルセンター 医師			
②令和6年3月7日(木) 大成中学校 ※予定 参加者:全校生徒、教員、保護者 (450名) 講師:自治医科大学附属さいたま医療センター 薬剤師 Çava! ~さいたまBEC~			
③令和6年2月8日(木) 下落合小学校 ※予定 参加者:教員、保護者 (70名) 講師:さいたま市民医療センター 医師			
取組の成果			
今年度から新たに2つの埼玉県がん診療指定病院やさいたま市薬剤師会の協力を得ることができ、さらに講義内容の充実を図ることができた。			
課題	今後の方向性		
例年と比較し、学校からの申込が少なかった。また、がんの仕組みや予防法などのがんに関する基本的な知識について、講師に医師を希望する学校が多かったため、他の講義内容についても伝えられよう周知方法を工夫する必要がある。	引き続き市立学校に周知するとともに、がん教育をさらに充実させるため、市内の私立学校にも対象を拡大することを検討する。 また、医師、看護師、薬剤師及びがん経験者から協力を得て講義内容の充実を図っているため、学校に講義内容を具体的に示しながら周知し、幅広い人材を活用する。		

事業名	重点目標	分野別の目標	2 循環器疾患・糖尿病の予防と早期発見・早期治療の推進
さいたま市健康マイレージ	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		5 積極的な身体活動と運動習慣の形成
	事業の目標		
楽しみながらウォーキングする機会を増やすことで、運動習慣を身に付け、ライフステージに応じて自ら継続的に健康づくりに取り組むことができる意識の醸成を目指します。	II 地域の環境や社会資源を活用した健康づくり		
	区の健康づくりの目標		—
事業の対象者		単年度事業・継続事業	
18歳以上の市民及び市内事業所在勤者		継続事業	
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
ウエルシア薬局株式会社、スポーツクラブNAS株式会社、さいたま観光国際協会、全国健康保険協会埼玉支部、第一生命保険株式会社、株式会社ツクイ・ツクイケアコミュニティ			
取組の内容			
<p>・体組成測定会の実施 タニタ体組成計で体重・BMI・筋肉量・筋肉のバランス等を計測することが出来る測定会を実施した。スポーツクラブのトレーナーを招いた運動指導ブースや、民間企業・医療機関と協働した健康相談ブースを設置し、健康啓発を行った。</p>			
取組の成果			
令和5年11月20日時点において累計参加者数45,763人である。			
課題	今後の方向性		
若年層世代の継続参加の少なさ、分析に利用できるデータの少なさ、利用者の増加による事業費の増加が課題である。	課題を解決すべく令和5年12月にアプリのリニューアルを行った。今後はSNSやオンライン広告などで若年層世代の参加を促し、継続的に参加いただけるよう定期的なイベントの開催や、ウォークラリーなどといった楽しみながら健康づくりに取り組める機能を充実させていく。		

事業名	重点目標	分野別の目標	2 循環器疾患・糖尿病の予防と早期発見・早期治療の推進
スマートウエルネスさいたま	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		5 積極的な身体活動と運動習慣の形成
事業の目標	II 地域の環境や社会資源を活用した健康づくり		
生活習慣病や寝たきり予防に向けて、部局を越えた連携により、保健福祉分野だけでなく、都市・交通を始め、様々な行政分野において、「歩く」を基本に、「体を動かす、体を動かしてしまう」まちづくりに取り組む。 また、健康無関心層の多い働き盛りの世代の健康づくりを目的に、健康情報の発信や各種セミナーの開催を通じ、健康経営を推進する。	区の健康づくりの目標		-
事業の対象者	単年度事業・継続事業		
市内事業所、在勤者	継続事業		
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
さいたま健幸ネットワーク加入団体84企業・団体(令和5年11月末現在)、健康経営埼玉推進協議会 大塚製薬株式会社(令和5年度第1回健幸セミナーを共催で実施)			
取組の内容			
<p>①メルマガ「スマートウエルネスさいたまNEWS」配信！ 令和元年度から、さいたま健幸ネットワーク加入企業の健康経営推進を目的に健康情報のメルマガ配信を開始。令和5年度は、「熱中症」、「認知症と介護予防」をテーマにメール配信しました。</p>  <p>②健康経営を推進！ 埼玉県、保険者等で構成する「健康経営埼玉推進協議会」に参画し、広域で健康経営の普及・啓発を行いました。</p> <p>③健幸セミナーを実施！ 市内企業・団体に向けた「健康経営」についての情報共有と意見交換の場として、「さいたま健幸ネットワーク健幸セミナー」を行いました。</p>			
取組の成果			
<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま健幸ネットワーク加入企業・団体 83団体(R5. 3月末)⇒84団体(R5. 11月末) ・さいたま市健康経営企業認定 56企業(R5. 3月末)⇒62企業(R5. 11月末) 			
課題	今後の方向性		
市内企業・団体のさいたま健幸ネットワーク加入促進及び、健幸ネットワーク加入企業間における円滑な情報交換の場の提供。	引き続き、様々な企業・団体と連携しながら事業を継続していく。 健幸セミナーは、健幸ネットワーク加入企業間における円滑な情報交換の場の提供に努めるという趣旨から、集合形式で開催をし、グループディスカッションやセッションを多く取り入れるようにする。		

事業名	重点目標	8 節度ある飲酒と未成年者の飲酒防止
アルコール関連問題等特定相談事業 「アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症に関する個別相談会」	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得	分野別の目標
事業の目標		
アルコール健康問題に加え、薬物、ギャンブル等の依存症に関わる問題に対し、市民への啓発や早期対応を目的に、相談日を設け、特定相談を実施する。	区の健康づくりの目標	
事業の対象者	単年度事業・継続事業	
アルコール・薬物・ギャンブル等について問題を抱えている市民(当事者、家族等)	継続事業	
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体		
取組の内容		
<p>各依存症の啓発週間等に合わせ、市報等で周知し、依存症に関する個別相談会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施回数 年8回 ・周知方法 市報、市内関係機関へのチラシの設置、Twitter、ホームページ 		
取組の成果		
<p>定期的に市報等で周知されることで、通常の相談枠ではつながりにくい層の方が相談につながるきっかけとなった。 家族からの相談が多いが、問題意識を持つ当事者からの相談も入りつつある。</p>		
課題	今後の方向性	
事業の把握経路は市報が多い。多くの市民に認知されるよう市報以外でも周知効果の高い方法について検討していく必要がある。	周知について工夫しながら継続して実施する。	

事業名	重点目標	分 野 別 の 目 標	8 節度ある飲酒と未成年者の飲酒防止
「さいたま市アルコール関連問題ネットワーク会議」の開催	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		
事業の目標			
市におけるアルコール関連問題に対する情報や課題を関連機関で共有すること。 依存症者等に対する包括的な支援を実施するため、関連機関が密接な連携を図ること。			
			区の健康づくりの目標
			—
事業の対象者		単年度事業・継続事業	
さいたま市民		継続事業	
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
依存症専門医療機関、回復支援施設、自助グループ、さいたま市警察部、保健衛生総務課、精神保健課			
取組の内容			
<p>アルコール健康障害(アルコール依存症その他の多量の飲酒、未成年者の飲酒、妊婦の飲酒等の不適切な飲酒の影響による心身の健康障害)、それらに関連して生じるアルコール関連問題(飲酒運転、暴力、虐待、自殺など)を予防し、本人・家族が円滑に支援に結びつくよう切れ目のない支援体制を整備するため、関係機関によるネットワーク会議を設置し、令和5年7月24日(月)に第1回会議を開催した。</p> <p>会議では、各機関におけるアルコール関連問題及び依存症者等の支援に関する取組について情報交換したほか、「さいたま市ヘルスプラン21(第2次)」の目標指標に関する結果概要(休養・こころの健康づくり、お酒)、「埼玉県依存症対策推進計画」策定時データ(妊娠中の飲酒、飲酒運転、自殺等)について情報提供を行った。また、効果的な普及啓発についてのアイデアを伺った。</p> <p><市調査データからみえる課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病のリスクを高める量の飲酒者が成人男性・女性共にベース値、中間値より増加 ・多量飲酒者の増加に加え、今回30歳代以上の女性の飲酒量に増加がみられ、いわゆる「働き盛り世代」の男女へのアルコール健康障害対策が課題といえる 			
取組の成果			
アルコール関連問題に対する情報や課題を関連機関で共有できた。			
課題	今後の方向性		
依存症に関連する機関の出席が中心であり、予防や身体科と精神科の連携について検討できるよう、構成機関を拡充する必要がある。	継続して対面で実施し、予防面の取組みや治療の連携につながるよう、参加機関を増やしていくとともに、関係すると思われる機関には随時情報提供を実施する。		

事業名	重点目標	6 睡眠と休養の確保、ストレスの解消
自殺対策推進事業「図書館キャンペーン」	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得	分野別の目標
事業の目標		
自殺対策における普及啓発の取り組みの一環として、図書館でのパネル展示やパンフレット等の設置による情報提供を行うことで、市民に幅広く、自殺の現状やその予防について啓発する。		
	区健康づくりの目標	
事業の対象者	単年度事業・継続事業	
市在住・在勤・在学の方	継続事業	
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体		
さいたま市立中央図書館、大宮図書館		
取組の内容		
<p>自殺対策やこころの健康に関連したパネルや図書の展示、パンフレット等の設置。今年度は、直近の自殺の動向をふまえて若者や女性向けの情報を強化して実施した。</p> <p>(1)中央図書館 国の定めた自殺予防週間にあわせて実施 令和5年9月5日(火)～9月19日(火)</p> <p>(2)大宮図書館 国の定めた自殺対策強化月間にあわせて、令和6年3月に実施予定</p> 		
取組の成果		
<p>図書館は、学生や会社員、子育て世代、高齢者など、幅広い世代の市民が利用している。図書館利用者が行き交うスペースにパネルや書籍等を展示することで、普及啓発が進むものと考えられる。</p>		
課題	今後の方向性	
<p>自殺の動向等を注視しながら、より効果的な事業の実施方法を検討していく必要がある。</p>	<p>開催会場、内容などの検討を行いながら、パネルや図書の展示、パンフレットの設置等を行う。図書館職員とアイデアを出しあいながら、効果的な取組を行っていく。</p>	

事業名	重点目標	1 がんの予防と早期発見の推進										
がん検診受診率向上対策	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得	分野別の目標										
事業の目標												
がんについての知識やがん検診に関する普及啓発活動を行い、がんに関する意識を高め、受診率向上を図る。												
	区の健康づくりの目標											
事業の対象者	単年度事業・継続事業											
市民	継続事業											
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体												
①大宮図書館、中央図書館 ②スポーツ振興課 ③広報課												
取組の内容												
①市内図書館にて がん検診のパネル展示 ・大宮図書館:7/14～7/28 ・中央図書館:10/17～10/30 	②市内に本拠地を持つサッカークラブのホームゲーム時に、大型映像装置による、がん検診の受診勧奨	 <p>あなたとあなたの大切な人のために がん検診へGO! お近くの実施医療機関で受診できます！ 問合せ：さいたま市 地域保健支援課 電話048-840-2214 FAX048-840-2229</p> <p>③市報さいたまに掲載(5月・8月・10月・11月)</p> <table border="1" data-bbox="584 1447 943 1704"> <thead> <tr> <th>検診部位</th> <th>対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胃、肺、大腸</td> <td>40歳以上の方</td> </tr> <tr> <td>乳房</td> <td>40歳以上で、前年度未受診の女性</td> </tr> <tr> <td>子宮</td> <td>20歳以上の女性 ※40歳以上の方は、前年度未受診(妊婦健診含む)の場合に限りです。</td> </tr> <tr> <td>前立腺</td> <td>50～80歳で、前年度未受診の男性</td> </tr> </tbody> </table> <p>※年齢は、令和6年3月31日時点です。なお、市内在住で、職場などで同等の検診を受ける機会のない方に限りです。</p> <p>①のびのび健診(特定健診)対象 本市の国民健康保険に入っている40～74歳の方 ②後期高齢者健康診査 対象 市内在住で、後期高齢者医療制度に加入している方 ③がん検診</p>  <p>健康診査を受けましょう</p>	検診部位	対象	胃、肺、大腸	40歳以上の方	乳房	40歳以上で、前年度未受診の女性	子宮	20歳以上の女性 ※40歳以上の方は、前年度未受診(妊婦健診含む)の場合に限りです。	前立腺	50～80歳で、前年度未受診の男性
検診部位	対象											
胃、肺、大腸	40歳以上の方											
乳房	40歳以上で、前年度未受診の女性											
子宮	20歳以上の女性 ※40歳以上の方は、前年度未受診(妊婦健診含む)の場合に限りです。											
前立腺	50～80歳で、前年度未受診の男性											
取組の成果												
①について、例年市内1か所の図書館で実施していたが、今年度から実施場所等を増やして実施した。実施場所を増やしたことで、展示と併せて配架した、がん検診に関するパンフレットの持ち帰り部数が増加しており、がん検診受診への周知へつながった。 ②③のように様々な媒体を活用することで、幅広い年齢層にがん検診に関する普及啓発ができた。												
課題	今後の方向性											
目標とするがん検診受診率に達していない。	がん検診受診率向上を図るため、がん検診未受診者の行動変容につながる啓発の方法を検討し、今後も継続して受診率向上に向けた取り組みを実施する。											

事業名	重点目標	分野別の目標	2 循環器疾患・糖尿病の予防と早期発見・早期治療の推進
糖尿病性腎症重症化予防対策事業	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		
事業の目標			
受診勧奨・保健指導のハイリスクアプローチ、また、教室等のポピュレーションアプローチにより、対象者の人工透析への移行を防止する。	区健康づくりの目標		-
事業の対象者	単年度事業・継続事業		
さいたま市国保加入者の内、以下に該当する者 (1)受診勧奨:糖尿病の未受診者・受診中断者 (2)保健指導:糖尿病性腎症で通院する患者のうち、重症化するリスクの高い者 (3)フォロー教室:糖尿病性腎症重症化予防対策事業の修了後4年目以降の対象者と、そのうち後期高齢者医療制度への移行者 (4)病態別教室:糖尿病予防に関心がある者	継続事業		
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
(1)受診勧奨及び(2)保健指導:埼玉県、埼玉県医師会、埼玉県国民健康保険団体連合会、さいたま市4医師会、さいたま市内130協力医療機関(4)保健センター			
取組の内容			
<p>(1)受診勧奨 特定健康診査等のデータから糖尿病性腎症の疑いがあるが、医療機関未受診の者と、糖尿病腎症で通院歴があるが受診を中断している者に対し、文書及び電話による受診勧奨を行う。</p> <p>(2)保健指導 糖尿病性腎症で通院中で、病期が第2期、第3期及び第4期のハイリスク者と思われる者で、本人が参加を希望し、かかりつけ医が推薦した者に対し、電話及び面談による保健指導を実施する。</p> <p>(3)フォロー教室 保健指導修了後4年目以降の対象者と、そのうち後期高齢者医療制度への移行者に対し、後期高齢者医療の担当と一緒にフォロー教室を実施する。</p> <p>(3)病態別教室 糖尿病予防に関心がある者に対し、保健センターで健康教室を実施する。</p>		<p>(2)保健指導内容</p> <p>腎症2期 (面談1回+電話3回) 腎症3,4期 (面談2回+電話2回)</p> <p>初回面談</p> <p>電話フォロー</p> <p>電話フォロー</p> <p>電話フォロー 最終面談</p> <p>保健指導を修了した方で、翌年度に希望があった方のみ</p> <p>面談 または 電話</p> <p>面談 または 電話</p>	
取組の成果			
<p>(1)受診勧奨:未受診者824人、治療中断者133人に対して文書勧奨を行い、その後、電話勧奨を実施した。</p> <p>(2)保健指導:1,593人の対象者に通知を送付し、参加を希望した対象者のうち、130協力医療機関のかかりつけ医が推薦した144人(昨年度132人)と継続支援を希望した41人、計185人に対し保健指導を実施中。</p> <p>(3)フォロー教室:国民健康保険加入の155人、後期高齢者医療保険加入の109人に案内を送付。参加者8人(国民健康保険3人、後期高齢者医療保険5人)に対し、教室を実施した。</p> <p>(3)病態別教室:9区において、実施中。11月16日現在、73人に対し、教室実施。</p>			
課題	今後の方向性		
保健指導の参加者数が減少しているため、協力医療機関を増やすための取組みをしていく。また、参加者は65歳以上が8割を占めており、生活習慣の改善の指導が難しい。糖尿病性腎症発症前の若い世代からの生活習慣の改善、糖尿病や合併症に対する知識の普及・啓発が必要である。	事業のスケジュールや実施方法等について、関係機関と調整しながら引き続き実施する。		

事業名	重点目標	分野別の目標	3 生涯を通じた歯と口腔の健康の維持・向上
8020歯の健康教室	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		
事業の目標			
<ul style="list-style-type: none"> 正しい歯のみがき方を身につけさせる 歯・口の健康に関する知識の啓発を図る 			
		区健康づくりの目標	—
事業の対象者	単年度事業・継続事業		
市立小学校の1・2・3学年の児童と保護者	継続事業		
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
さいたま市歯科医師会、埼玉県歯科衛生士会			
取組の内容			
<p>【歯科衛生士による児童への歯みがき指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講話は例年どおり実施し、直接口の中に入れての歯みがき実習は、口の外でみがくマネに留めた。 <p>【歯科医師による保護者への講話】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校保健委員会での講話とする学校が多く、学校により、保護者を集めての実施や、オンライン開催など様々であった。 			
取組の成果			
<ul style="list-style-type: none"> 歯をみがくマネの実施により、教室の時間帯では「本番は給食の歯みがきの時間にね！この時間は練習だよ！」などと、児童に声掛けを行ったことで、普段以上に給食後の歯みがきでは、集中して流れる音楽に耳を傾け歯をみがいていた。 オンラインで学校保健委員会を実施した学校は、後日オンデマンドで歯科医師の講話を流したことで、多くの保護者に歯科口腔保健の大切さを周知できた。 			
課題	今後の方向性		
<ul style="list-style-type: none"> 歯科衛生士による歯みがき指導を暑い時期に実施する学校は、熱中症対策も講じなければならない。 コロナ禍以降、学年ごとに実施する学校が多いため、埼玉県歯科衛生士会の体力的な負担が大きい。(3時間連続で同じ内容を実施するため) 	<ul style="list-style-type: none"> 歯科衛生士による歯みがき指導は、実施時期や埼玉県歯科衛生士会の負担軽減も含め、学校のよいタイミングで実施できるよう、動画配信等も視野に入れ、埼玉県歯科衛生士会と調整していきたい。 		

事業名	重点目標	分野別の目標	3 生涯を通じた歯と口腔の健康の維持・向上
歯科巡回指導	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		
事業の目標			
児童一人ひとりに歯肉の健康状態を理解させるとともに、自己に適した歯みがき方法を身につけさせる。			
	区健康づくりの目標		—
事業の対象者		単年度事業・継続事業	
市立小学校の4・5・6先生のいずれかの一学年		継続事業	
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
埼玉県歯科衛生士会			
取組の内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・歯肉炎についての説明(成り立ち・原因・予防法) ・歯肉の自己観察 ・歯垢染色による歯みがき実習(歯ブラシチェック・歯垢染色状態の確認を含む) 			
取組の成果			
<p>(担任教諭の感想から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で使用する歯ブラシをチェックすることで、歯垢を除去できる歯ブラシなのかが確認でき、買い替えるきっかけになった。 ・歯垢染色の実習により、歯垢の付着が気になり、給食後の歯みがきを丁寧に行うようになった。 			
課題	今後の方向性		
<ul style="list-style-type: none"> ・学校により実施学年が異なり、歯肉の自己観察が難しい学年がある。 ・実習用具(歯ブラシや手鏡など)を忘れると、実習ができないため、忘れ物対応について検討が必要である。 ・巡回指導が受けられる児童、受けられない児童が居る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導が受けられる児童、受けられない児童が居ることあから、平等に受けられるよう事業の実施方法等を検討していく必要がある。 		

事業名	重点目標	分野別の目標	3 生涯を通じた歯と口腔の健康の維持・向上
公民館介護予防事業	Ⅱ 地域の環境や社会資源を活用した健康づくり		4 1日3食バランスのとれた食生活の推進
			5 積極的な身体活動と運動習慣の形成
			6 睡眠と休養の確保、ストレスの解消
事業の目標			
本市の地域的課題の一つである高齢者支援に対応する事業を行い、もって市民の教養の向上、健康の増進等に寄与する	区健康づくりの目標		
	—		
事業の対象者		単年度事業・継続事業	
65歳以上の方		継続事業	
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
各区高齢介護課、いきいき長寿推進課 等			
取組の内容			
<p>「介護予防普及啓発事業」に関する教室を「公民館介護予防事業」として、区高齢介護課、いきいき長寿推進課及び各公民館による主催並びに生涯学習総合センターの協力により開催。</p> <p>1 生きがい健康づくり教室 健康、食育、防犯、防災、文化・芸術などさまざまなテーマを、公民館で従来実施してきた介護予防教室の形式(講座、ワークショップ、体験学習、世代間交流など)で学び、高齢者の生きがいづくり、健康づくりを目的とした教室を実施。</p> <p>2 ますます元気教室 各種体操や簡単な運動・栄養改善・口腔ケア、認知症予防等、高齢期の生活全般にわたる必要な知識を複合的なテーマで学び、自主グループ化を目指し、介護予防活動を継続できるよう支援することで、高齢者が自立した生活機能を維持し要介護状態等になることをできる限り防止することを目的とした教室を実施。</p>			
取組の成果			
<p>令和4年度実績</p> <p>生きがい健康づくり教室 参加者延べ人数 33,613人</p> <p>ますます元気教室 参加者延べ人数 9,290人</p>			
課題	今後の方向性		
リピーターの方が多く傾向にあるため、新規参加者増加のため広報等に工夫が必要。	参加しやすく、また学びのある魅力的な講座(教室)づくりを行っていく。		